

令和8年度丹波篠山市立篠山中学校 経営方針

1 教育目標

未来を切り拓く基礎力・思考力・実践力をもち、支えあい学びあう生徒の育成

[未来を切り拓く：学び続ける・真実を見分ける・行動する]

[基礎力：知識・技能 思考力：思考力・判断力・表現力等 実践力：学びに向かう力・行動力・人間性等]

[支えあい学び合う：対話・協力]

2 めざす学校像

未来の創造に向けて対話がこたまし、一人一人の可能性を最大限に伸ばす学校

[指導の重点]

- (1) さわやかな環境：安全安心な環境づくり
- (2) ささえあう仲間：将来や社会の糸口をつかむ仲間づくり
- (3) やけどする授業：主体的・対話的で深く学ぶ授業づくり
- (4) まごころかよう学校：生徒と大人が真摯に向き合う学校づくり

3 めざす生徒像

支えあい学びあいながら深く考え、実践する生徒 *キーワードは「考える」

[教育活動によって培う]

- (1) さきよみ：目的を持って活動することで、社会を見つめ将来を考える力をつける
- (2) ささえあい：困難な課題でも周囲と協力・調整して解決に向かう
- (3) やりぬく・まとめる：最後まで責任をもって遂行する

4 めざす教師像

○教育は“今日行く” 素早く丁寧に、そして笑顔で 「以徳育徳 以才培才 以情動情 以行導行」

○チーム篠中「自分の役割と責任を果たし、組織的に協働する」

5 めざす学校・家庭・地域連携像

ワイ(夢・キャリア)・ワイ(やりがい)・ワイ(やすらぎ)

まごころで生徒と大人が熟議するコミュニティ・スクール

6 指導の重点と実践項目

(1) さわやかな環境 (安全安心な環境づくり)

自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育

- ① 感染症、食、アレルギー、飲酒喫煙薬物乱用防止をはじめ、情報化進展に伴う事件・事故の防止、防災、環境保全、国民保護等、安全安心で規律ある教育環境を確立する。
- ② 時間厳守や体幹保持など「きびきびした生活」、換気、環境美化整備など「すがすがしい環境」、挨拶など「さわやかな仲間」をはじめとして、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する実践力を育成する。
- ③ 学校安全マニュアルに基づき安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確認により、事故に即時即応する。
- ④ 体育・スポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせることにより、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。
- ⑤ 家庭や地域、関係機関と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握・改善や予告なし避難訓練、自転車点検・自転車保険への加入等を通して安全に対する意識の高揚を図る。

(2) ささえあう仲間 (将来や社会の糸口をつかむ仲間づくり)

ア 誇りを感じる学校・学級集団

- ① 学校生活の課題について、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、話し合い、合意形成、意思決定し、協力して改善することを通し、人間関係形成・社会参画する力を育てる。
- ② 生徒会・教科係が生活・学習の諸課題について協力・協働して改善する活動やルールメイキングを通して、学校内外の生活・学習マネジメント能力を育てる。
- ③ 目的を明確にした学校行事によって、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協力して課題解決したりする主体的、実践的な態度を育てる。

- ④ ノー部活デー（月・木曜日と土日いずれか）による心身ともゆとりのある中で、効率的、効果的に部活動を行い、目標をもって自発的・自主的に活動する生徒を育成する。部活動の地域展開と連動しながら持続可能な部活動のあり方を検討する。
- ⑤ ICTのアンケート機能などを活用し、生徒会が学習や生活について分析、評価、改善を行うなど、生徒がPDCAでセルフマネジメントする能力の育成を図る。

イ 存在感や成就感を大切にした生徒指導

*結果ではなく過程を褒めること・認めることや、形成的評価の実施による成長的マインドセットを図る

- ① 生徒が存在感を実感する中で自己肯定感、自己指導力やコミュニケーション力を高めるよう、対話的な学習指導や体験的な集団活動を通して命と人権を根幹に据えた発達支持的生徒指導を進める。また、計画的に課題未然防止教育を進める。
- ② 学年担任制による多様な相談体制、人的環境・教室環境・授業のユニバーサルデザイン化、ICTによる迅速な調査、スクールカウンセラーとの連携など、ガイダンスとカウンセリングの双方から、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・対応する。特別支援の視点も取り入れる。
- ③ いじめ防止基本方針や生徒会「No More いじめ宣言」により、いじめの定義や実態を啓発し、家庭・地域・関係機関と連携したいじめ対応を進める。いじめアンケート、生活ノート等は、複数の目で点検をし、小さな変化を見逃さず、いじめを組織的、積極的に認知し、早期解決を図る。
- ④ 教職員の徹底した共通理解のもと、生徒指導方針、いじめ防止基本方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携しケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。
- ⑤ 情報技術の仕組み、個人情報、肖像権や著作権の権利、端末利用によるトラブル等を正しく理解させるとともに、生徒会で策定している「情報機器取り扱い三箇条」を守らせ、関係機関も活用しながらデジタルシティズンシップ教育を進める。また、相談機関を生徒・保護者に周知する。

ウ 豊かな人間性・社会性を育む道德教育、人権教育

- ① 他者や自己との「対話」による「深い学び」をめざした「特別の教科 道德」を要とし、教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養う。（中心発問の精査・ローテンション授業・形成的評価）
- ② いじめ、インターネットによる人権侵害、性的マイノリティ、その他今日的な人権課題を含め、人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて計画的に命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。

*基本的な考え方：「人は尊敬されなければならない」

- ③ 地域に根ざした伝統芸能や多様な芸術を紹介・鑑賞したり、地域貢献活動に参加したりすることにより、ふるさと「丹波篠山」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。

(3) やくどうする授業（主体的・対話的で深く学ぶ授業づくり）

*生徒一人一人の学力・資質向上及び教員の指導力向上を図る

ア 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育

- ① 職業構造の変化や新産業の創出、SDGs等も踏まえつつ、国際的視野に立って学ぶことと将来や社会とのつながりを考え、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。
- ② 生徒が能動的に生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを有効に活用し、キャリア形成に資する個に応じた組織的・計画的な指導を行う。
- ③ ライフプランを含めたキャリア教育を通じて、主体的に生涯の生活を設計し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）や、社会における自分の役割、自分らしい生き方について考えさせる。
- ④ 体験活動の目的を明確にし、事前事後指導を充実することを通して、地域の人々とのつながりを深め、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、地域を大切に思う心、社会参画への意欲・態度を養う。

イ 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善

- ① 授業スタンダード（予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り）に基づき、各教科等の見方・考え方を創発し、個と集団を思考が行き来する「主知的・対話的で深い学び」を進めるとともに、目標と授業の流れを生徒と共有し、振り返りで学びを実感し、家庭学習において次の学習や他教科の学習、生活との関連に向かうよう取り組ませる。
- ② 空間的・時間的制約を緩和するICT環境等を用いて、知識・技能の定着を図る「個別最適な学び」、仲間の考えから自己の考えを深める「協働的な学び」、自己の学びを改善し、推進し続ける「主体的な態度」における学びの質を高める取組を推進する。
- ③ 教科係会の活用によって授業の取り組み方や見通しのある予習、振り返りのある復習について生徒自身が考え行動し、家庭学習の定着を図る（特に予習が進むように取り組むを進める）。また、主体的な学びが進むように長期休業中の課題を検討する。
- ④ 兵庫型学習システムを活用した少人数指導や補充的な学習、発展的な学習など、系統性を重視したつまずきの解消を図り、確実に学力を定着させる個別最適な学びの授業改善を進める。
- ⑤ 特別支援教育を中核に据え、教育支援計画における合理的配慮と一貫性のある支援、及びユニバーサルデザインについて、全教職員で共有して組織的にPDCAサイクルを推進し、豊かな人間関係づくり、ともに伸びる力を育成する。
- ⑥ 授業時数を確保し、言語能力（英語によるコミュニケーション能力を含む）、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現在の諸課題に対応する資質・能力を教科横断的な視点で計画的に育成する。
- ⑦ 図書室を活用し、読書への興味を深め、豊かな心を培いながら読解力向上をめざす。

(4) まごころ通う学校（生徒と大人が真摯に向き合う集団づくり）

ア 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール

- ① ホームページ、学校だより、オープンスクール等により、めざすべき生徒像や教育活動の目標や具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。
- ② 生徒会と学校運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来の糸口となる、夢・やりがい・やすらぎ（安全安心）を体感する教育を進める。
- ③ 学校運営協議会における熟議と協働を通して、目標を共有し生徒の豊かな成長を支える。特に、教育課程の評価改善や、企業等による人的物的支援などを行いながら、カリキュラムマネジメントを進める。
- ④ 小・中・高等学校の連携を密にし、児童生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての学びと育ちの連続性を確立する。

イ まごころで生徒とともに学ぶ教職員組織

- ① 教育は“今日行く”を行動の基本におき、生徒・保護者・地域住民のつぶやきに敏感に気づき、複数で即時即日対話し、課題と改善の方向性を共有する。（すべては信頼関係から 素早く丁寧に、そして笑顔で）
- ② 「チーム篠中」の一員として自らの役割と職責を果たすとともに、困難な課題は一人で抱え込まず、協働（チームワーク）によって解決する。
- ③ 兵庫県資質向上指標により育成目標を重点化し、自らの学びのマネジメントを進めるとともに、学年担任制、一人一回の研究授業、ユニバーサルデザイン研修、ケース会議等事例研修を通じ、保護者や地域の期待に応えられる豊かな人間性、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。
- ④ 法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、情報機器の進展、グローバル化など社会の変化に対応した教育観を培う。（職員申し合わせ事項の実行）
- ⑤ 1人1台タブレットを利用した校務・業務の効率化・情報化、教育関連文書・事務作業精選、バック・キャスト（ゴールを精選し、逆算して計画）による教育活動、会議の効率化（会議資料の事前配布）、ノー部活デー（月・木曜日と土日いずれか）や定時退勤日の徹底、記録簿によるタイムマネジメント、計画的な年休取得などワークライフバランスの保持と勤務時間の適正化を進める。